

フランスの政治

- イタリアを巡りスペインと衝突
フランスは16世紀の初めにフランソワ一世というかなり野心的な王様が現れる。目をつけたのはイタリア北部のミラノ公国であった。それをスペインを中心に対抗するという構造ができた。スペインはカルロス一世という人物。
 - フランソワ1世（在位1515－1547）VSカルロス1世（在位1516－1556）
しかし、フランスは一気に戦うわけにはいかない。ミラノでは敗戦するし、慎重にならざるを得なかった。そこで…
⇒ 大西洋上でスペイン戦の略奪を企図
- ディエップの貿易商ジャン・アンゴ
彼に注目した。この当時の商船は、武装していてかなりの力があつた。大砲とかも持っていたし。
 - 海軍ではなく、民間人を襲撃に利用
なので承認の商船に目をつけたのである。
 - 国王が許可上を発行
許可状を与えて正当化させたのである。

ジャン・アンゴ（1480－1551）

大西洋貿易に従事していた。

- 1523 配下にジャン・フレリョアゾーレス船でスペイン船を待ち伏せしてアステカの財宝船を収奪
フランスに依頼されてやった。スペインはこの当時アステカ帝国を征服する。その報告の、貢ぎ物を積んだ船をちょうど襲撃したのであつた。カルロスのスペインの船をおそわせた。
- 1524 ジョヴァンニ・ヴェラザノー
自分たちで指針大陸を開発して、植民地などを手に入れようと言ふことになった。
 - 大西洋横断：ハドソン湾到着
- 1531- ポルトガルがアンゴの船を拿捕
もう取引はさせないという姿勢であつた。
 - ポルトガルを攻撃、賠償金要求→新大陸まで仏船が進出
アンゴの方が実は強かつたという話。
- 1555-1567 リオ・デ・ジャネイロ植民地

観察事項

- 軍事、海賊、貿易、探検の要素が混在→海賊は一つの可能性に過ぎない
- 貿易商→新大陸からでの通商を希望
 - スペイン勢力を争う可能性
 - 国家が襲撃を依頼する場合→私掠船活動

corsaire, corso, privateer

⇒ 海賊とは異なる

イギリスの政治

- スペインとの関係悪化
 - 国王ヘンリー8世
 - 妻：カトリック両王の娘カタリーナ
 - 愛人：アン・ブーリン

⇒ 妻と離婚し、破門される

- 1534 イギリスで国教の誕生

- カトリックと国教派の対立

Cf.メアリー・チューダー

- エリザベス1世即位→フェリペ2世と対立

ホーキンスとドレイク

ホーキンス

- 父親：アフリカやブラジルへ公開
- 本人：西アフリカ・カリブ：奴隷貿易（1562-）
- 1567：嵐でベラクルスへ避難
 - メキシコ副王軍のだまし討ち→私掠活動の活発化
- その後議員となり、海軍強化に努める

ドレイク

- ホーキンスの部下：復讐に燃える
- 1572 ノンブレ・デ・ディオス攻撃に失敗
- 1573 パナマ地峡で輸送隊を奇襲→5万ポンド以上の銀を獲得
- 1577-80 世界周航：王侯貴族。承認が出資

銀輸送船団を拿捕 18万ポンド

サンフランシスコ

香料諸島で丁字6トン

→エリザベス1世に巨額の配当

- 騎士の称号

スペインとの戦闘

- 1585— サントドミンゴ、カルタヘナ攻略
- 1587 スペイン南部カディス攻略→無敵艦隊の供給
- 1588 無敵艦隊に火計を企てる
- 1595 ホーキンスとともに再度カリブへ
 - パナマ地峡を攻略するが反撃に遭い、退却・病死

オランダの独立

- 毛織物産業を基盤に商業が成長
- カルロス1世の帝国分割

⇒ スペイン；フェリペ2世の統治

- カルヴァン派vsカトリック
- 1568～独立戦争
- 1579 ユトレヒト同盟成立

⇒ 大西洋へ進出

オランダの進出

- 16世紀末～

⇒ 会社が探検を要塞攻撃

- 東インド会社（1602）、西インド会社（1621）：株式New Amsterdam設立
- 西アフリカで要塞建設
- カリブや南米ギアナ、ブラジルを占領（1630-54）

⇒ 史上最大のスペイン銀輸送船団拿捕（1628）

- Piet Heyn ハバナ沖

私掠船の時代

- 貿易商人＝武装商人
 - 国家が貿易承認の公開力を活用
 - 私掠は投資事業

⇒ スペイン・ポルトガルの輸送網を攪乱

- 拠点はあくまでもヨーロッパ

⇒ 新大陸に拠点を気づく17世紀

キーワード

- ①. 奴隷の労働と抵抗
- ②. 混血化・文化混交
- ③. 奴隷制度の廃止
- ④. フランスの海賊と政治的背景 16世紀
- ⑤. イギリスの海賊と政治的背景 16世紀
- ⑥. 貿易商と海賊活動
- ⑦. フランシス・ドレイク